

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

20

2022 AUGUST

きれいな
大和川を目指して





奈良市立佐保川小学校 主幹教諭

上垣 智さん



同校 教務主任

皿田 益美さん

奈良市立佐保川小学校

(奈良市)



「水辺の楽校」を清掃する佐保川小学校の児童たちと教職員

地域をつなぐ佐保川を自分たちの手で守りたい

世界遺産「春日山原始林」を源流とし、奈良市内、大和郡山市内を流れる一級河川・佐保川。川沿いの一角には遊歩道として、「水辺の楽校」が整備され、地域の人たちの憩いのスペースになっています。その隣にある奈良市立佐保川小学校では、約26年にわたり、児童と教職員が力を合わせてこの遊歩道の清掃を続けています。

大切な佐保川を守るために 積極的に清掃活動

初夏の日差しの下、元気いっぱい清掃活動に取り組んでいるのは、奈良市立佐保川小学校の児童たちです。この日は、5年生の6名が掃除当番です。担当教員の皿田先生と一緒に竹ぼうきで履き掃除をしたり、ごみ拾いをしたりと石段の隅々まで丁寧に掃除をします。「先生、今日のごみは枯れ葉と泥が多いね!」と掃き掃除をしていた児童。「ほんまやね。昨晩は雨と風が強かったからね。がんばろう!」と皿田先生も呼びかけます。

清掃場所は、校舎の南側にある佐保川沿いの遊歩道。川に架かる「学び橋」の下から300メートルほどの区画です。落ち葉、砂、泥などの自然ごみのほか、ペットボトル、お菓子の袋、タバコの吸い殻などの生活ごみが散在。児童たちは、見つけたごみを先生に報告したり、分別方法を尋ねたりと積極的に取り組みます。15分ほどの清掃ですっきりときれいになりました。

同校が取り組む佐保川の清掃活動は「水辺のそうじ」と呼ばれており、3年生以上の児童が順番に担当。佐保川が身近にある同校ならではの取り組みです。「ごみの中には人が故意に川に捨てた物もあります。そんなときはどうしたらいいのかな?」と社会のマ

校」です。今では、水生生物の調査や四季の自然観察など、子どもたちにとって水辺学習のフィールドになっています。また、四季折々の草花を觀賞したり、川岸で演奏会を実施するなど、人々にとってのくつろぎの空間としても幅広く活用されています。

また、児童たちは「夏になると水遊びをしたり、水辺の虫を探したりと、佐保川は私たちにとても大切な川です。頑張って掃除をして、もっときれいな川にしていきたいです」「これまでも、たくさんの人たちが掃除してくれているから、今のきれいな佐保川があります。次は僕たちが掃除をする番です」と頼もしい意見。
児童たちにとって、大切な存在である佐保川。自分たちの手で守っていききたいという熱意があふれています。

遊んで、学んで、交流して… 「水辺の楽校」の取り組み

同校が佐保川の清掃活動を始めたのは、平成8年に登録された「水辺の楽校プロジェクト」がきっかけです。子どもたちが安全に水辺の環境を学習できるように、行政が連携して佐保川沿いの親水護岸を整備。そうして完成した遊歩道が、学校の南側にある「水辺の楽

同校の主幹教諭・上垣先生は「水辺の楽校は、いわば人々の憩いの場。子どもたちはもちろん、地域の方向士が交流できる大切な場所です。清掃は当校をはじめ、地域のボランティア団体、PTA、行政機関でも取り組んでいて、多くの方々が協力し合っています。佐保川の環境保全に関わる人たちのことも、子どもたちに話したいです」と地域連携の大切さを感じています。
春は桜、夏は蛍、秋は紅葉、冬は水仙と、自然の移ろいを身近に感じる佐保川の水辺。児童たちにとっても、地域の人たちにとっても、遊び、学び、交流ができる唯一無二の場所なのです。

佐保川がつなぐ 地域と子どもたちの絆

「これからは、町や佐保川のルーツを知る郷土学習に力を入れていきたいです」と話すのは、同校の越尾校長先

生。町や佐保川の来歴を熟知する住民が多いことから、昔、川にはどんな生物がいたのか、町の人は川とどのように関わっていたのかなど、川を基盤とした地域の営みを子どもたちにも伝えていきたいと話します。上垣先生も、「私自身も佐保地域の出身。小学生のとき佐保川を清掃した日の記憶は残っていて、大人になった今でも、かけがえない大切な川です。清掃活動や自然環境教育を通じ、生まれ育った町にある川を誰もが誇りに感じてもらうことを願っています」と話します。
子どもたちが未来へと受け継ぐものは、佐保川の美しい景観と、その背景にある人々の努力。これからも佐保川小学校は、地域や行政と手を携え、佐保川の景観を守っていくことでしょう。



水辺の楽校で清掃に励む様子



竹ぼうきやちりとりを携えて清掃場所へ

ナーや自然環境について子どもたちと一緒に考えています」と皿田先生は話します。



代表
齋藤 文夫さん



代表
樋口 建市さん

竜田公園を愛する会

(斑鳩町)



竜田川での清掃活動の様子

世界に誇れる「きれいな竜田公園」をめざして

四季折々の自然が美しい斑鳩町にある県立竜田公園。この景観を守るために、地域の有志によって発足されたのが「竜田公園を愛する会」です。公園や竜田川の清掃活動をはじめ、ポイ捨て禁止運動、子どもたちへの環境教育も推進。世界に誇れるきれいな町をめざして活動しています。

竜田川の清掃 「クリーンウォーク」を 月に一度実施

古より詩歌に詠われた歴史ある河川・竜田川は、生駒山から流れ、斑鳩町内を貫流し大和川に合流します。この竜田川沿いに約2kmにわたって整備された「竜田公園」は、春には桜、秋には紅葉など四季折々の景観が美しく、世界遺産の法隆寺とともに町を代表する観光拠点のひとつです。普段から散策やウォーキングなど、住民の憩いの場としても活用されています。この景観を維持するために、活動を行っているのが「竜田公園を愛する会」の皆さんです。

この日は、竜田川の清掃活動「クリーンウォーク」の日。毎月第一日曜日に、川の中や岸の清掃を行います。川に入るときは、長靴を履き、つなぎの作業服を着用。ペットボトル、ビニール袋などのほか、一見、ごみに見えない木の枝や水草も、石にかかると流れをせき止める原因となるため、丁寧に拾い集めます。岸辺では、生い茂った水草をカマで刈り取り、タバコの吸い殻、弁当の容器などを回収。1時間ほどの作業で、約10袋のごみを回収しました。

さらに、ポイ捨て防止対策として、令和4年4月、竜田大橋に「すてるな！ごみとあなたの心」と書かれた横断幕を設置。これには、生駒市、平群町、斑鳩町の美化推進団体との連携が背景にありました。このように、会の活動はいまや町を超え、近隣市町村にも広がっています。

「私たちが作業をしていると『ありがとう』『ご苦労様』と町の皆さんが声をかけてくれるのが何よりの喜び。これからも、できる人が、できる範囲で活動を続けていきたいと思えます」と齋藤さん。

「世界に誇れる町をめざして、斑鳩町は文化を、私たちはきれいな町を発信していきたいです」と樋口さん。一人で始めた清掃活動が、地域住民を動かす原動力に。齋藤さんたちの活動は、この町を愛する次世代の人たちに受け継がれていくでしょう。

ポイ捨てを防ぐため 公園内のプランターに季節の花

「長年、地域のごみ問題に悩まされてきました」と話すのは、代表の一人である齋藤文夫さん。20年以上前、道端に捨てられた大量のごみに驚いたことから、町のごみ拾いを開始。ごみ袋3〜4袋分を自宅に持ち帰り、家庭ごみとして分別していました。その活動に賛同した樋口さんと共に、平成23年5月、竜田公園周辺の清掃活動を行う、その名も「竜田公園を愛する会」を発足。有志の方々も集まり、今は17名の会員で構成されています。

発足当初は清掃活動が中心でしたが、今では公園の美化活動にも力をいれています。公園内に花壇を作り、ベンチの周りにプランターを置いて季節の花々を植栽。草花の水やり、植え替えも会のメンバーで行います。「きれいな花が咲いていたら、ごみを捨てる人が減るのでは...」と、始めて始めまし



公園内の至る所に花のプランターを設置



斑鳩町から支給されたごみ袋にごみを収集

清掃活動を 次世代へつなぐ

「環境保全の大切さを次世代へ伝えていくのも私たちの役目です」と樋口さん。同会では、生駒市、平群町、斑鳩町の小学生を対象に、「竜田川探検隊」と呼ばれる子ども向けの環境学習を実施。水生生物の採集や観察、水質の調査、蛍の鑑賞会などの自然体験を通し、子どもたちに故郷の自然や川の美化に関心を持ってもらえるよう努めています。また、町内にある他のボランティア団体や中学生たちと一緒に清掃活動を実施するなど、他団体との交流にも積極的です。





色鮮やかな花々が咲き誇る春の花壇



花の植え付けに励む会員の皆さん



土を耕し、雑草を刈り、夏向けの花を植栽する様子



代表
竹村 康子さん



木村 恵子さん

飛鳥川散歩道の会

(橿原市)

道行く人たちを笑顔にしたい! 地域住民が取り組む花いっぱいの手作り花壇

「飛鳥川沿いの遊歩道を季節のお花で彩りたい」と、花壇づくりに取り組む「飛鳥川散歩道の会」。今では川の景観づくりに欠かせない存在です。地域の人はもちろん、観光で訪れた方々との交流の場にもなっています。

一年を通して
花が楽しめる花壇を

明日香村を源流とし、橿原市内を流れる一級河川・飛鳥川。小房町では川沿いに遊歩道が整備され、「花まんだらのお寺」と呼ばれる「おふさ観音」まで続いています。春の遊歩道は特に美しく、堤防に植えられた桜や、花壇のチューリップが咲き誇り、散策する人や撮影を楽しむ人たちが大賑わい。この遊歩道の清掃や花壇の手入れなどを行っているのが「飛鳥川散歩道の会」の皆さんです。

梅雨の晴れ間の月曜日。主な活動場所がある飛鳥川の西側の花壇には、朝から10名ほどのメンバーが集まり、咲き終えた花の剪定、苗の植え付け、草刈りに励んでいます。花壇には、深紅のゼラニウム、パステルカラーのポーチュラカなど、20種類ほどの花が開花。秋が深まると赤く色づくコキアは、今はこんもりと丸い緑のボールのようです。ほかにも、春にはチューリップ、冬はクリスマスローズなど一年を通して花が楽しめる花壇づくりを心がけています。

「苗や球根は、季節に合ったものを選びます。ほかにも、自宅の花を持ち寄り、寄付いただいた苗を植えたりと、色んなお花がやってくるから賑やかな花壇になるんですよ」と現在代

「苗や球根は、季節に合ったものを選びます。ほかにも、自宅の花を持ち寄り、寄付いただいた苗を植えたりと、色んなお花がやってくるから賑やかな花壇になるんですよ」と現在代

無理をせず、空いた時間に参加して、集まったら仲良く過ごす…こうした無理のないルール作りが長年続けられる秘訣。「一緒に活動できる人が増えてくれたらもっと嬉しいね」と笑いな

表を務める竹村さんは話します。一通り作業が終わったら、みんなでの花壇へ。歩く道すがら、雑草をむしり、ごみ拾い。会員のひとり、木村さんは「まだタバコのポイ捨てはあるけれど、昔と比べて随分ごみは減りました」と嬉しそう。東側の花壇の手入れや植栽、生い茂った桜の木の剪定を終え、午前中で作業は終了です。

花の整備活動は 地域交流の場

つらいでいて、作業中におしゃべりするときもあるんです」と木村さん。10年以上活動している中井さんも、「土を触ったり、お花の手入れをしていると、豊かな気持ちになります。仲間との会話も楽しみなんです」と居心地よさそう。

楽しみにしてくれる人が いる限り 活動を続けたい



「地域の河川サポート事業」参加団体募集！

～河川美化活動を支援します～

地域による河川美化活動を育成し、憩いと潤いのある河川空間を創出するため、地域住民の皆様が主体的に実施される河川美化活動（草刈り・花の植栽・清掃等）を支援します。

3つのプログラムがあります。活動内容にあったプログラムでご参加ください！

憩いの川づくり プログラム



活動内容 草刈り

活動要件 1回の参加人数10人以上
年間1回以上
延長100m以上
刈り取り高10cm以下
刈草を河川に流さないこと

支援内容 面積に応じた報償金の支給
(㎡×9円)
傷害・賠償責任保険の加入
サインボード(看板)の設置

彩り花づつみ プログラム



活動内容 花の植栽・維持管理

活動要件 1回の参加人数3人以上
年間1回以上

支援内容 面積に応じた報償金の支給
(㎡×320円※)
※花苗の植えつけ及び
維持管理の場合
傷害・賠償責任保険の加入
サインボード(看板)の設置
花苗等の物品の支給

ボランティア支援 プログラム



活動内容 清掃
(軽微な草刈りを含む)

活動要件 1回の参加人数5人以上
年間1回以上
延長50m以上

支援内容 報償金の支給または、
傷害・賠償責任保険の加入

詳しくは県水資源政策課水循環政策係までお問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL.0742-27-8489 URL. <https://www.pref.nara.jp/17237.htm>

川をきれいにするには、生活排水処理対策が必要です！

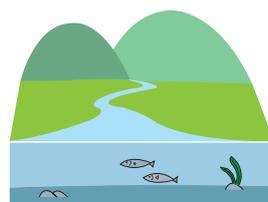
公共下水道整備地域では 下水道へ接続しましょう



下水道が整備されても、家のトイレや台所の排水管を下水道に接続しないことには、下水道の効果が発揮されません。

下水道の供用開始の公示がなされた区域にお住まいの方は、下水道へ接続しなければなりません。河川環境への負荷を減らすため、下水道へ接続しましょう。

浄化槽地域では 合併処理浄化槽への転換をお願いします



単独処理浄化槽やくみ取り槽のご家庭では、台所や風呂場等雑排水を浄化せずにそのまま河川に流してしまいます。合併処理浄化槽は、家庭から出るすべての生活排水を処理するため、河川への負荷が大きく削減されます。

川をきれいにするために、合併処理浄化槽への転換をお願いします。

支援制度があります。

下水道への接続、合併処理浄化槽の設置に対して、助成制度を設けている市町村があります。詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。